

73と88、そして33

JJ1SXA/池

アマチュア無線では、CWの交信時だけでなく、SSBやFMの電話等でも一般的に、使われている「73と88そして33」、73はBest Regards、88はLove and kissesを意味することは知られていて、今や、メール等でも使われています。

この73と88の由来については、ARRLのWebサイトの「Ham Radio History」内に記述がありますし、K9STHの電信の略号の歴史についての記述、QST誌の73の起源に関する短文等がありますので、これ等の抜粋を、次に引用掲載。

無線通信が発達する前の有線電信時代に、電文の伝送効率を上げるために2桁の数字に意味をもたせたコード表を発案しました。

その中に73はありましたが、それは終了あるいは終了符号の意味でした。

1857年に発行された国内電信便覧に記述のある73は「My love to you!」の意味で、その後発刊された便覧でも同じ説明でした。

この時代に使用された他の数字コードは現在も同じ意味で使用されているものがありますが、73はその後短期間に意味が変化したことは興味深いことです、その後73はバレンタイン的な愛の表現から、もっと漠然とした友情の表現に変化したのです。

それは電信通信士間の挨拶あるいは友情表現として使用されました。

1859年には大手電信会社ウエスタンユニオンは、1-92の数字コード表を作成しましたが、この時の73は「私の善意を誰々によりしくお伝えください」という意味で、その時代に合ったものでした。

それ以後20世紀に入るまで、電信関係のマニュアルで73は記述されていますが、次第にその意味は簡略化され、単なる「敬具」の意味に変化しました。

そして、アマチュア無線界では文末の「敬具」以上の暖かい感情が含まれた73が継続して使用されています。

また、K9STHはあるMLに電信略号の歴史について、次のように記述しています。

多くのハムは、73がいわゆる「Phillips Code」に由来して、この一連の数字コードが、有線電信時代のそれと同じ意味を表現して伝送時間を短縮するために作られたことを知っています。

QST誌1935年4月号60ページに73の起源に関する短文が掲載されています。

これは1934年12月発行の海軍操業月報に掲載された記事の抄文と思われます。

海軍通信部の電信主任だったJ.L.Bishopは、1905年に以下の数字コードが有効に使用されていたと述べています。(数字コードは略)

…以上、引用終り…

73は、色々意味が変りながら、現代に生き残ったようです。

女性同士の交信のお別れの挨拶は、「33」ですが、この意味については余り解説が無いようです、そもそもこの「33」は一人のアメリカ人YLによって作り出されたものです、作者はニューヨーク州出身のClara Regerさん(W8KYR/W2RUF)。

Clara Regerさんは、1933年、35歳の時にアマチュア無線の免許を取得し、第二次世

界大戦後には非常通信のエキスパート、そしてモールス通信の達人として知られていたようです。

YL はあまり数が多く無いので、折角 YL 同士が交信する機会に恵まれたのに、最後に別れの挨拶に 88 を打つのはなんだか寂しいと思ったそうで、1940 年 7 月、何か特別な YL 同士のあいさつが欲しいと考えに考えた末「33」を編み出したのです、その後アメリカの YL グループ YLRL の会員がこれを使い出し、今に至っているのです。

意味は、「Love sealed with friendship between one YL and another YL (YL 二人の間で交わされた友情と親愛の証し)」とされています。

普段何気なく使っている、73 や 88、まあこんな意味だとは誰でも知っているが、33 は如何でしたか？

一寸気になる事

- 1、シグナルレポートの交換、59・ファイブナインは、五・九で、五十九は本当は間違いです、R が 5 で S が 9 でそれぞれ独立した数字です、59 はファイブナインで、フィフティナインではありません、然し、日本では 59 は五十九(フィフティナイン)で通っています。
- 2、電話で、Q 符号を使う場合、Q 符号の正しい意味を知って使ってもらいたい、QTH は良いとしても、QRA は〇〇〇と名前を名乗っているが、CW の交信では、NAME (is) 〇〇〇と打つ、QRA 〇〇〇とは打たない。
QRA? は「貴局名」は何ですか?、QRA は「自局名(例:JJ1SXA)」だ、QRA の意味は局名であって、オペレーター名の事では無いのだ。

これは気になる事では無いが、常識の一環として、CW の通信速度の話

通常は、1 分間に何字というのが一般的だ、例えば、CW の試験の有った頃の 1 アマは、1 分間 60 字の欧文、1 分間 50 字の和文の 3 分間の送受信が課されていた、しかも、送信については、私が受験した時は縦ぶれ電鍵使用のみだった、このように、1 分間に何字という表記だったが、1 分間何ワード(WPM...words per minute)という表記もある。

1 ワード=50 短点分の 1 分間当たりの出現回数ということで、50 短点の基準として「PARIS」の符号を用いることから PARIS 速度とも呼ばれる(符号の速度が同じであっても、英語の平文では出現頻度の多い文字ほど符号が短いため、実際の文字数は多くなることがある、CW の符号は、「1 長点=3 短点分、各点・線の間=1 短点分の間隔をあける、文字間隔=3 短点分の間隔をあける、語間隔=7 短点分の間隔をあけて区別する」と決められている。

P(・―・) 11 短点分、文字間 3 短点分、A(・―) 5 短点分、文字間 3 短点分、R(・―・) 7 短点分、文字間 3 短点分、I(・・) 3 短点分、文字間 3 短点分、S(・・・) 5 短点分、語間隔 7 短点分で合計 50 短点分

私のように、10 ワード/分のタイピングにアップアップしているようでは、コンテストログの使用は無理だ、最低でも、20 ワード以上のタイプ受信ができなければいけない、今時、コンテスト参加に、紙ログ受信はお笑い草だ、情けない！